１．　件名：「東海第二発電所の地震等に係る新規制基準適合性審査（標準応答スペクトルの規制への取り入れに係る変更）に関する事業者ヒアリング（２）」

２．日時：令和３年１１月８日（月）１３時２５分～１４時３０分

３．場所：原子力規制庁９階耐震会議室

４．出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁　原子力規制部　地震・津波審査部門

岩田安全管理調査官、三井上席安全審査官、佐藤主任安全審査官、中村主任安全審査官、永井主任安全審査官、松末技術参与、大井安全審査専門職

日本原子力発電株式会社　開発計画室　室長代理　他４名※

※テレビ会議システムによる出席

５．自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

６．提出資料

資料１　東海第二発電所　標準応答スペクトルを考慮した地震動評価について（コメント回答：地盤モデルの妥当性）

別紙

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	お疲れ様日本原子力発電ナカガワです。はい。こちらもメンバーそろいましたんでヒアリング開始したいと思いますがよろしいでしょうか。
0:00:08	はい。
0:00:09	こちらもそれましたのでよろしくお願いします。よろしくお願いします。では最初にですね、資料の説明からお願いいたします。
0:00:16	はい。
0:00:18	なお、
0:00:20	日本原子力発電のイクタマです。それでは資料の説明
0:00:26	行います。
0:00:28	画面に映しますので町村ください。
0:00:53	これ、
0:00:55	画面に映ってますでしょうか。
0:00:58	はい。移っております。はい。それでは説明を始めたいと思います。
0:01:04	まずページめくっていただきます。2 ページ目をお願いいたします。
0:01:10	このコメントリストという形で内容と概要がまとめたものになります。
0:01:18	もう
0:01:21	一番 2 番三番が、地盤モデルの妥当性に関するコメントということで、これ
0:01:29	れんがの面談でお尋ねしたものをそのまま転記してございます。
0:01:37	それでまず一番からですが、これ
0:01:40	PS検層を今回の評価の時には段ボールでしたけれども今回サスペンション使うということの考え方を説明することということです。
0:01:50	二つ目のポツでまた以降でこれらの許認可の審査でもちらの物販の結果等もですね整合性確認することということで、このまた以降ですね面談のときには、この三番のコメントのほうに入ったんですけども内容からすると。
0:02:06	コメント 1 のほうに関連するのかなと思いまして 1 のほうにまた以降で移動してございます。
0:02:15	この回答がにつきましては後程詳しく説明しますけれども、これ簡単に御説明しますと、まず一つ目のポツで、
0:02:26	表情とスペクトルの定義がVs2100 以上というものです。転化されている一方で、我々の東海第 2 の地下の地盤モデルの速度構造がですね、技術が 1000 m未満。
0:02:42	の層から鋭意、急にですね 3000 名と近くに急変する特徴がありますので、
0:02:49	あそこのところでですね、入力総本部に考えるかというところについては改めて調査データに基づいた上ですねまた設定したいというふうに考えてます。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:03:01	具体的にはこの二つ目のポツに書きましたようにサスペンションデータで新たな速度構造設定して、これ入力ソートしています。
0:03:11	ただ
0:03:13	同じ速度構造の今回このように新しいでしたということについては、三つ目のポツに書きましたけれども、それが妥当であるかどうかっていうのは、清信物理探査の結果ですとか、あの地震観測記録との比較により、
0:03:29	確認しているということでございます。
0:03:33	それから二つ目のコメントの減衰定数で今回、
0:03:38	影を考慮するということに
0:03:41	至った考え方ですけれども、それは、
0:03:44	もともと
0:03:46	減衰定数に関する知見は振動数依存がこれ従来から言われておりましたが、
0:03:53	ただ現在ですね下限の存在が患者さんです。示す事例が大分蓄積されてきたということがあって今回は、
0:04:05	減衰定数の同定させた管理をしたということでございます。
0:04:12	それから三つ目のコメントで同定解析をする際に三つの地震観測記録の
0:04:19	広く用いてるんですけども、その妥当性については他の地震でもを検証することということでございます。
0:04:27	それで今回ですね
0:04:30	同定解析できる実績については、先天プロセスをですね、詳しく説明するということで、まずあのもともと候補としては 23 日の伝達関数がございまして、その中から伝達関数を代表するウー5 地震を選んでございます。
0:04:48	この 5 地震を選んだ段階で伝達関数ですね、大きな差は見られないと大体ほぼ同じ形状の伝達関数になっていると。
0:04:58	いうことを確認した上で最終的に 3 地震を伝達関数を用いたというものでございます。
0:05:05	したがいまして二つ目のポツになりますが、検討に用いる地震の戦略プロセスの段階でですね。
0:05:12	サンリツ以外の地震の記録ウーについても確認した上で、最終的に 3 地震を使っているということでございます。
0:05:23	それから次のページをお願いいたします。
0:05:27	3 ページ目のコメントリストはこれ
0:05:31	4 番から 8 番までありますが、これらの地震動巨大地震の評価の影響とそれからもう違反に関するものでございますので、これは次回以降ですね
0:05:45	その場で回答をするということに考えています。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:52	それから、4 ページ目をお願いいたします。
0:05:55	これの目次を今回新しくつくりましてこういう構成で
0:06:01	考えてございますがこの構成自体は、玄海の資料と大きく変わってはございません。
0:06:11	それから 5 ページ目をお願いいたします。
0:06:16	ですね、黄色のマーカー部分がこのページの地震動評価の方針ですがこれ前回の会合でも御説明したところで変わったところは企業のワーカーこれあの、
0:06:30	このページだけではなくて以降、
0:06:33	このページすべてですね、前回から変わったところは黄色マーカーとかね。湧永小出追加したとか、そういう形で考えて、
0:06:43	5 ページにペネ形状ちょっと目標作った関係でもページを先延ばした関係でその程度の修正ということでございますが、中身は変わってございます。
0:06:54	それから 6 ページ目をお願いいたします。
0:06:58	この右肩に新規というふうに
0:07:02	ね、開会にございますが、こういう新規というのは新しく今回、ページを設けた整備でございます。
0:07:10	コメントの一番上にも対応するページでございまして、
0:07:15	今回
0:07:17	サスペンションを使ったというところの考え方を書いたものでございます。
0:07:24	まず黒い四角のですね、入力層の検討ということで、
0:07:29	回答の概要を書きましたが実施症状とスペクトルの定義
0:07:35	とそれから既許可の地盤モデルの関係ですね、この
0:07:40	特に等にはいえるマイナス 680m付近を境に大きな速度ギャップがあるので、そこのところ、
0:07:51	どうするかというところで、
0:07:53	今回は大深度ボーリング、PS検層まああの、これは既往のものですけども改めて確認して入力等を検討するということでございます。
0:08:04	それは標記の説明性を確認した上で、標準応答スペクトルの地震動評価に用いるモデルとするというふうにしています。
0:08:15	新しくつくったモデルに対しては、検査の確認、妥当性が確認するということで、STARーですね箱書きに書いて書きましたように、
0:08:28	①から③の取り組み確認するということでございますが、まず①は、
0:08:36	このELマイナス 679m深いところは、サスペンション法の結果がVS2100 に近い値を示しているので、今回この方法に準拠して速度構造設定するということでございます。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:50	設定したことについては、次の②の箱のところですね。
0:08:56	紀陽の
0:08:58	物理探査との比較検討を含めて、整合制を確認するというものでございます。
0:09:05	それから最後に地震記録の説明性これあの、
0:09:09	伝達関数を説明できるかどうかというところの確認を行う。
0:09:14	こういう確認された上でですね、それは正しいものでも採用すると。
0:09:20	いう方針で今、そういう方針でございます。
0:09:25	それから、7 ページ目をお願いします。
0:09:30	7 ページで速度構造のうちのですね。
0:09:36	いえるまず 79m以浅の速度構造の設定例でございますが、ここは、
0:09:43	許可のときの留萌いいような地盤モデルを設定しているものを今回もそのまま同じ形で用いるということでございます。
0:09:55	休暇の留萌の地盤モデルのときには、
0:09:58	大深度ボーリングのPS検層結果から、標高依存式を求めてですね、それに基づいてベイズVpを定めていますので、今回も同じような値で同じ当たるものを使うということでございます。
0:10:17	それから次の 8 ページ目をお願いいたします。
0:10:21	今度いえるまず 679m深いところですが、ここが今回変えたところでございまして、
0:10:30	今回、
0:10:32	サスペンションに基づいて評価を行うということで、
0:10:37	これ従来は大深度ボーリングがダンボール孔を用いていましたが、今回それをサスペンションに変更したということでございます。
0:10:50	いや、具体的には
0:10:52	新しいは各学校で囲んだの済みでございますが、
0:10:56	このダンボール方向での層区分砂層圧ですね、これはそのまま維持をしてですね。
0:11:04	その横断ホール法の同じ層内へサスペンションのデータを平均でとったというやり方で今回このようなあたりのものを今回採用するということでございます。
0:11:20	それでその上でですね地震基盤相当面は、
0:11:24	ELマイナス 679m位置にグリース
0:11:28	2200m層の上限としてませんというものでございます。
0:11:35	それから次の 9 ページ目をお願いいたします。
0:11:39	ここからがですね、
0:11:42	今回設定した速度構造の

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:45	既往の物理探査結果との関係に関する説明で、
0:11:50	移行 9 ページ目からですね。
0:11:53	15 ページ目ぐらいまではこの関係の説明があります。
0:11:57	また 9 ページ目ですが、位相分散曲線に関する比較ということで、
0:12:03	まず■見届けてございますが、最初の黒い四角は、
0:12:09	記録の地下構造の審査のときに、敷地内で実施している微動アレイをやってるんですけれども、
0:12:15	あれサイズがですね、一番大きいものでも、約 470mなので、
0:12:21	今回、地震基盤より深いところの速度構造との整合性を考える上では、ちょっとサイズが小さいということが考えられましたので、
0:12:33	その代わりに、二つ目の■ですが、もともと敷地の周辺では、
0:12:40	この重力異常と地下構造の関係を把握するために、
0:12:45	屈折法ターの微動アレイも行って、基盤構造調査しております。
0:12:52	時に、
0:12:53	実施した微動アレイというのは、
0:12:56	場所によって大分違いますけれども、4 キロでしたり、大体のものが 2kgサイズのものですので、これだけ開ければですね、地下の深いところまでは探査の範囲がおよんでいると考えられますので、今回、
0:13:12	こちらの敷地周辺で実施したアレイ探査の結果、
0:13:18	もうを活用して妥当性確認を行ったという。
0:13:23	具体的には、この微動アレイの探査に基づいて三次元地下構造モデルを作成していますので、
0:13:31	この地下構造モデルに基づくウー敷地の位相分散曲線と、
0:13:38	それから許可でのでも一番までの
0:13:42	その分散曲線、それから今回設定した地盤モデルのISO曲線ですね、この三つを比較して、
0:13:48	それぞれの環境が整理するという流れで検討を行いました。
0:13:55	別には 10 ページ目をナガイたし、
0:13:59	ここは来許可のときの
0:14:04	反射区設の微動アレイののさ再掲という形になりますが、ここは
0:14:10	反射屈折法、例えば 10 ページ目の左の図は屈折法探査のLineA測線上にやった微動アレイ探査の結果、
0:14:20	それから、推定した速度、1 坪で位相分散曲線と推定したのモデルの重ね書きしたものがこの左側の図でございます。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:31	それから 10 ページの右側の図がこのライン蛇足仙台一連実施したアレイ探査結果ですね、これも、
0:14:37	記録とそれから逆解析した分散曲線の比較になってございます。
0:14:45	こういう形でモデルを作っているということで、
0:14:51	それから 11 ページ目を
0:14:53	11 ページも同じように、左側の図はline側線 2 でやった微動アレイの測線の結果とのモデルのISOの 3 規格によります、
0:15:08	右側の図クーラーのラインですね、区設法探査沿いではなくて、それとは別に実施したところの同様の比較になってくる。
0:15:18	それから 12 ページ目をお願いいたします。
0:15:22	これが許可のときで使ってづきました資料をそのまま再掲という形になりますが、
0:15:31	11 ページまでに説明したながらモデルに基づいて三次元地下構造モデルをここに書いて手順で二つ設定。
0:15:41	するというのがこの 12 ページ目。
0:15:46	最終的にでき上がった三次元地下構造モデルは、次の 13 ページ目をお願いいたします。これこれも、
0:15:54	昨日の時の図の債権になりますが、作成した三次元地下構造モデルの
0:16:02	各Vsの上限の深さ分布になります。
0:16:08	このモデルを使って人分散曲線を検討するということになります。
0:16:14	ねその結果がですね、14 ページ目をお願いいたします。
0:16:21	ここは
0:16:23	あと、
0:16:27	右側の図にA－14. でございますが、
0:16:32	この
0:16:33	ポイントの大深度ボーリングのすぐ近くの的になりますので、ここの位置での
0:16:40	位相分散曲線を求めるということで、具体的には三次元モデルから、このA－14 地点での一次元モデルを切り出して、
0:16:52	その大磯分散曲線と比較したものでございます。それがベアリングになりますが、
0:16:59	モデル微動探査から求めた
0:17:05	モデルの位相分散曲線
0:17:07	これは緑点で
0:17:09	それで、
0:17:11	許可のときの留萌の地盤モデルのもう分散曲線を青線になります。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:17	今回サスペンション法で新たに再提出というものは、この赤線になりますが、今回あの場で赤と緑の線比べると、
0:17:27	全信協にあたって整合しているのも確認してございます。
0:17:32	長周期側で青線と赤線ですね、来許可のモデルと今回のモデルでサクサがで出ておりますが、ここはちょうど深いところのVSを書いた。
0:17:46	影響が元にこういう差が出ているということでございます。
0:17:55	それから次の 15 ページ目をお願いいたします。
0:17:59	今度はですね。
0:18:01	物理探査結果の一応は別スペクトル比ということで、PRAの敷地内の
0:18:09	一応この部位はこれ単点微動を実施しておりまして、それで、
0:18:14	一応管理スペクトル比の空間分布を北側のときには、
0:18:19	説明しています。
0:18:21	それで今回、先ほどと
0:18:23	磯分内局長に同じように大深度ボーリングの位置に近いA－14 番での位置での
0:18:31	微動のHオーバーV曲線と、
0:18:34	それから、既許可の後の地盤モデルのこれの理論の一番上、
0:18:40	それから赤線が今回のモデルの一応額になります。
0:18:45	これの比較したものが左側の図になりますが、
0:18:50	マクロの微動のHOBに対してモデルの 1 億伸びは大体山形における位置は、
0:18:59	今回の新しい前基本ときも同じようなところで出ているのは記録のピーク途端に対応するようなところで出ていると。
0:19:08	いうことで、
0:19:10	これはこういう形で、衛星もちろんが確認したということでございます。
0:19:18	それから以上側の速度構造に関する説明になります。
0:19:24	これ 16 ページ目、お願いいたします。
0:19:27	ここからの減衰定数の設定の方針ということで、ここは
0:19:33	下の適正化ということで、少し修正しておりますが、基本的に
0:19:38	書いてあることは変わってございます。
0:19:45	17 ページ以降ですね。
0:19:48	今回の減衰定数を考えるときに考えを考慮することにしましたが、
0:19:58	考えるに当たって治験整理してございますので、その知見に関する説明を
0:20:07	20 ページぐらいまで説明いたします。
0:20:10	まず 17 ページは、これあの竹村ほかの 93 年度の分で、

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:16	事件の内容ですね、
0:20:21	周波数依存を考慮する場合としない場合で、
0:20:25	これ
0:20:26	周波数依存した、ああした方、記録としてはですね、
0:20:33	Q値は周波数とともに増加する傾向が要するに振動数依存が見られたというものをそういうふうな地形でございます。
0:20:42	それから四つ目のポツに書きましたように、高振動数側になると。
0:20:47	Q値が頭打ちになるということが論文でも示唆されていまして、その理由として、アンダーライン引いていましたが、
0:20:58	配員と認識が 90%の内部減衰の影響が出てくるかも知ればそういう解釈がなされていく。
0:21:09	それから、18 ページ目は、福島翠川の 94 年の論文でございます。
0:21:16	これの
0:21:18	周波数依存
0:21:20	考慮するとしはつりの考慮しない場合に比べていろいろとよく説明しているというものでございます。
0:21:30	これが薄く緑から見て、
0:21:34	それから、
0:21:35	19 ページ目をお願いいたします。
0:21:39	これは機能した大池の論文で、
0:21:42	ここはですね、減水乗数の関数モデルを設定しないで、減水乗数を同定したというものでございますが、
0:21:51	その結果として、減水乗数にはある周波数から下限値が存在してそれより高振動数高周波数側ではいい依存性が見られなくなるということをしてきたというもので、
0:22:05	この図が二つ、Bとありますが、
0:22:10	これらの平滑化するときのバンド幅を多くたるバンド幅でやったのが左側が、
0:22:16	それから 3 分の 1 をイクタマ幅でやったものが右側の図になります。
0:22:22	この直線状に書いてある式があるところまでは依存性がありますけれども、途中から
0:22:30	フラットになるというものを示してございます。
0:22:36	それから次の 20 ページ目を
0:22:39	これはサトウほか 2006 の
0:22:41	論文ですが、
0:22:43	来ました大池の論文で、これ先ほど前のページ、障害者の部分ですけれども、

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:50	ここで減衰の下限があるということが言われているので、
0:22:56	影起こるできるような関数のモデルの提案をしたというものがこの論文サトウ他 2006 年になります。
0:23:04	その結果として、
0:23:06	推定したのがこの左側の図になりまして、この黒い太線、そういったものが、
0:23:13	この論文で言われているもので下限が途中から見えるという。
0:23:19	この推定した還元は、
0:23:21	既往の室内試験の微小ひずみ履歴減衰とよく対応しているということを確認したというのがこの右側の表の
0:23:35	それから 21 ページ目をお願いいたします。これは
0:23:40	2016 年のお前。
0:23:42	やっぱり新しい部分になりますが、この論文でもですね、
0:23:48	記録から減衰定数を推定すると。
0:23:53	管理が存在することが
0:23:58	わかってこれもともといわゆるって危惧したオオイの結果と共通するということが示されています。
0:24:08	この図で火線青線でありますが、これ
0:24:11	推定した位置がの浅いところが赤線で深いところが天端そういうとこになりますが、イメージしても、
0:24:19	あるところからあとこの場合考えが見えてくるということを示してございます。
0:24:28	それから 22 ページをお願いいたします。
0:24:31	裏のこれまでの知見の整理の結果を踏まえて減衰のモデルの考え方を整理したものでございますが、
0:24:42	この知見の整理の結果として、
0:24:45	いうもともとあの減衰乗数には依存性があるというのはもともと言われたことに対して、
0:24:51	近隣では下限の存在が指摘されている文献がきっと幾つか出てきてそういう蓄積還元の存在を蓄積する。影の存在
0:25:02	の蓄積がですね、多くなってきたので、厳正定数の設定に関しては、
0:25:09	影も考慮するということで、今回、
0:25:13	これは考え方を採用いたしました。
0:25:19	それで、23 ページ目、
0:25:25	ここからが地盤同定解析に用いる地震の選定ということで、
0:25:31	この選定条件というところの記載は、これは前回の量ですが、この選定のフローですね。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:40	箱書きの四つの形で、
0:25:43	実機をしてございます。
0:25:47	まずこの機関の記録を選定として、使いますが、この中から、
0:25:55	P波S波の初動が明瞭な地震、これは結果として 23 日に選ばれて、まずこれを選んでおります。
0:26:04	この 23 日の伝達関数を比較してみて、これ全体の伝達関数を代表するものを選ぶと、これご自身選んでください。
0:26:15	一番下の箱書きですが、その中からマグニチュードの大きい 3 地震を設定したというのはこういう流れで設定して、
0:26:25	熱が 24 ページをお願いいたします。
0:26:28	23 年、選定したものの信号分布図とそれから地震の諸元でございます。
0:26:37	リストとして整理いたしました。
0:26:43	それで、次が 25 ページをお願いいたします。
0:26:47	まずTransverse方向について、
0:26:50	23 地震の伝達関数を任さ利害たものがこの
0:26:57	真ん中の伝達関数になります。
0:27:01	それで、これを見ると、
0:27:06	短周期側周波数帯域と来高周波数体がですね。
0:27:12	ここは大体概ね 3Hzぐらいを境にそれより高振動数側では、ばらつきはそれほど大きくなくてはいけないんですけども、大変強い小さいところでは時の記録によってまばら作ることがございます。
0:27:28	ただ全体の伝達の代表するような御自身を選ぶとですねこれは結果的に⑩の規模のやっぱりますが、そういったものは、選定すると。
0:27:40	3Hz以下の周期体も含めて、ばらつきが少なくなって、
0:27:45	それであのね、代表するでご自身の方を選んだというものでございます。
0:27:52	その 5 地震を選んだものがこの図でいきますと赤線或いは水色の線になりますが、
0:28:01	このうち最終的に算術選んだというのが、赤線になります。
0:28:06	5 地震を選んだ段階でどの周期体もばらつきは大分抑えられるようになりますが、その中から最終的にこの赤い 3 地震を得られているんだというもので、
0:28:21	それから次の 26 ページをお願いいたします。これアップダウン方向で
0:28:26	ございますが、これTransverseの時睨んだ顎実施をそのままいただくものでございます。
0:28:35	後日選んだ段階でですね、プラン方向についての伝達関数のばらつきは少なくて、

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:43	その上で、最終的には赤線のものを赤線というのは農水Transverse選んだものと同じ値を最終的なんだというものでございます
0:28:53	ここでもいえるマイナス 17mの地震計は呼称しているので、データのペアとしては、この三つになるということでございますが、これ前回の会合のときとが同じような状況でございます。
0:29:09	それから 27 ページ目です。
0:29:14	やっぱの最終的に用いるな 3 地震について説明したものですが、最初の黒四角は、今まで伸びてきたものを
0:29:26	整理したものでございますが、
0:29:30	これで
0:29:34	3 熱意以下では 23 日の段階ではばらつきが大きかったんですけれども、
0:29:39	また、全体を代表するものについてと前主体でばらつきが小さくなってそれをその中からさらに、
0:29:46	難聴の小さな地震を選んだというものでございます。
0:29:51	履くはっきり書きましたように、
0:29:54	その選定のプロセスの段階で、まさに地震以外の
0:29:58	記録での検証も行っておりますので、行われて、最終的に 3 人協力を得られないというものでございます。
0:30:11	28 ページ目からが、
0:30:15	同定解析の前にスタッフの
0:30:19	ただ、先ほど言ったとか、解析条件提示になりますが、
0:30:23	28 ページ 29 ページは、
0:30:26	前回の会合資料から、
0:30:29	うん。相手のね。
0:30:34	それから、
0:30:36	30 ページ目をお願いします。
0:30:40	30 ページにTransverse方向の絵がありございますが、ちょっと黄色のマーカーに回答に゜ 同定結果は観測記録を再現している。
0:30:50	その一部を追記いたしました。
0:30:55	それから次の 31 ページ目をお願いいたします。これは方向でございますが、
0:31:01	同定結果、同じように記録と同定結果の際限性に関する文書を一部一文追記してございます。
0:31:11	あとそれから
0:31:13	伝達関数の凡例のところですね、ちょっと黄色のマークがありますが、ちょっと前回の時にはですね、ELマイナス。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:22	190 今はっきり書いてございますが、ちょっと前回の資料で、ここは記載をいえるまず 17mというふうに故障しているフロアのかさちょっと会議室になりましたので、ちょっとここは今回の訂正さして正しい記載にして、
0:31:41	32 ページ目が最終的な
0:31:46	地盤同定結果ということですね、これ前回の資料の再掲になります。
0:31:53	それから 33 ページは、まとめの訴訟として、
0:31:58	33 ページは速度構造と地震規模のソフト面ですね、両括弧 1 で説明した内容をまとめたものでございます。
0:32:10	それで
0:32:11	右側にコメントNo.1 に関連する事項ということで、
0:32:16	ある一番から 5 番まで付番してございますが、
0:32:21	これとその下にある章のコメント、
0:32:25	No.1 のコメント対応、コメントに対して今どのように対応しているのかっていうのを対応づけるためですね、この番号を振ってございます。
0:32:37	これ例えばのコメント内容の一番の
0:32:41	最初の
0:32:43	コメントに対してはコミュニティの上の表の①②
0:32:48	の記載と対応したものでございます。
0:32:51	それから、
0:32:52	北半分のコメントの下半分については、
0:32:57	上の表の③があるとの対応で確認したということでございます。
0:33:04	それから次の 34 ページ。
0:33:09	これらの減衰定数の設定のところでございますが、同じように、これは
0:33:16	3 ページ同じような体裁れそれぞれ
0:33:20	コメント 2 番三番とどんな対応しているかということで、オフバランスって、
0:33:27	下のコメント番号ごとの対応でどんどん時間でしたかというものを
0:33:33	まとめたページでございます。
0:33:37	ここまでがですね、今回のコメント、コメント対応ということでの地盤モデルだと整備課長せんなります。
0:33:48	35 ページ目以降は前回の審査会合も違反の関係になりますので、そこは前回の会合資料の再掲へという形で 35 ページを集めて、
0:34:01	そういうふうになります。
0:34:05	説明としては以上になります。
0:34:09	はいありがとうございました。そうしましたら確認事項その他あればですね、規制庁のほうからお願いします。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:23	すみません、規制庁のナガイですけども、聞こえてますか。
0:34:27	はい、今日出ます。
0:34:29	ちょっとまず全体的なことですけども通※2 ページのコメントをなんですが、元に戻してください。
0:34:37	といいますのは、一つ目の考え方だけを聞いていて、
0:34:41	二つ目。
0:34:43	移動されて率計表で、
0:34:46	今、頑張って全く同じこと言ってる同じ同じカテゴリーのこと言っているので、カテゴライズがあるんですが、これもともと、
0:34:54	そのカテゴライズいただくだけいただきたくないんですけども。
0:34:57	はい。
0:35:00	このまとめ、また以降は、
0:35:03	三番のほうのカテゴリーになる。
0:35:07	はい出雲モデルの検証をして求めているので、
0:35:12	はい。すいませんあわかりました。はい。
0:35:15	そのうちですね。
0:35:17	はい。一番はそもそも今回なぜデータを変えて、
0:35:21	はい。社長データを変えたかという考え方を聞いて段目は今回その求め方を変えたという考え方を聞いておりますので、はい、元に戻っていただきました。
0:35:36	ちなみに、
0:35:38	資料構成としては今の
0:35:40	流れ載せ構成。
0:35:43	そこはよろしいんでしょうか。
0:35:47	はい。資料構成は現状のままでいいんでちょっと介護数若干考えさせていただきますけれども、介護で今説明されている部分だっけ。
0:36:00	でいいかなと思ってます。
0:36:05	許可時の説明と比較してということで確認を何点かさせていただくんですけども。
0:36:12	はい。まずですね、
0:36:17	検証という意味でやっていただいて、14 ページ。
0:36:23	はい。の比較なんですけれども、これ
0:36:26	許可じゃここの点で比較をしていなくて、C－05 という結構北側のほうにある。
0:36:34	はい、微動アレイ探査と比較しているんですけれども、なぜここで変えたんですが、今回、
0:36:39	記

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:41	今回もともと大深度ボーリングのデータに基づいてモデルモデルを組んでいるところがございますので、そういう意味でですねそれに近いところの観測点と比較するという形で、
0:36:57	今回Ａ－14 というところですね、比較ということに
0:37:03	それでこういうへの需要設計したということでございます。
0:37:07	うんですが、結局はでもそこは変わってないですよね。
0:37:13	等ですね、そこは変わってない。
0:37:16	ちょっと違うのを示してパラっていうのはちょっと許可時の説明とアンフェアだと思うんで、秘密があれば、
0:37:23	両方示して両方の精度が適切かと思うんですけども、そこは、
0:37:29	追加で書いていただくこと。
0:37:32	わかりました。地下で
0:37:35	ほかに書いてあるのと同じような同じ位置でのものも追記いたしました。
0:37:43	まず争点は、来許可時と整合性という観点でお願いします。
0:37:48	はい。ちょっともう 1 点と、許可では整合性という観点で確認するんですけども、次の 15 ページの
0:37:57	はい。方で、
0:37:59	これはあれですかね、留萌のモデルを使ったから出ているのかと思うんですけども、0.
0:38:08	来秒から 2 秒の間に山谷的許可時の
0:38:12	説明資料と全く出てないんですけど、これはモデルが違うからという理解でよろしいですか。
0:38:17	今回ここで基本モデルは基本モードだけで書いているので、ちょっと高次モードが、
0:38:25	ちょっと同じように強調。
0:38:27	来高次モードが入っていない。
0:38:30	関係で
0:38:34	え一っとですねこのPT定点進呈周期側のピークが出てきているという状況でございます。
0:38:44	はい、わかりました。
0:38:46	あともう一つ、これが全体として非常に大きいところで、
0:38:52	面談でも言ったかと思うんですけども、実際この
0:38:56	今回のAモデルを作ろうと思って。
0:39:01	て、実際に回帰された時期というのはいつなんです。
0:39:09	はい。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:11	地盤同定解析とか、そういったもの。
0:39:15	の解析
0:39:17	行った時期ということですと、これは 2010。
0:39:24	質問、
0:39:28	ちょっとあのその正確なの開始時期は確認しますが、2010。
0:39:33	つまり、荷重
0:39:35	訓練とその時期なり、
0:39:41	規制庁ナガイですけれども、
0:39:45	ちょっとそこは一つの大きな変だと思うんですけども、まずまず、今回、
0:39:51	前回のモデルがそういうふうにでき上がっているにもかかわらず今回帰ってきたのかというところで、
0:39:57	留意が表情とスペクトルのせいだっていうんであれば、ちょっとそれはこちらも考えるとこなんですけども。
0:40:03	新しい知見を踏まえて、許可後に、このタイミングで、
0:40:07	適切なものであるとして同定解析を行ったというのであれば、
0:40:13	こちらとしてある程度納得はできるんですけれどもそうである。
0:40:19	のであればそういうふうにちゃんと書いていただきたいと思うんですけども。
0:40:25	わかりました。
0:40:28	知見が蓄積されたの。
0:40:32	要領とスペクトルきっかけというのはありますけど知見の蓄積がそういったものがあって今回新しく作ってモデルを作ったというところは現世の下限の話とかもその通りですので、そういうことが、
0:40:48	資料上わかるように、の御指摘のあった。
0:40:53	観点についての資料のほうに追記したいとしたいと思う。
0:40:58	はい。そこはそのコメントの趣旨をこちらのコメントとして、もともとそういうところにあるので、そういう意味で、1 階からの回答と実際にその解析をやった時期というのをしっかり書いていただきたいと。
0:41:12	配当したという形でちょっと若干織り込みますけども、23 ページ。
0:41:22	の起算言うとこれ
0:41:25	データ 2019 年 1 月までって対象期間としてはこれ以降にやられたんだろうということは推測はつくんですけども。
0:41:33	実は次のページ、24 ページの資料を見ると、2014 年 12 月以降のデータって全くないんですけども、これ実査本当に使ってないのか、使ってみたけども駄目だったのかですか。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:47	これはですね、高高さのほうに近いと思うん思います具体的に御説明しますと、
0:41:54	2014 年。
0:41:58	のし納期ですが、15 年ぐらい入っとですね。
0:42:02	今回、ELマイナス 17 ちょっと故障したという説明しましたけど、そことは別のAsano地震計がですねこれちょっと水平も故障してるというところがあったりですねちょっと故障期間が故障してる人権が多くなった。
0:42:18	てるというところと、
0:42:20	やっぱのノイズレベルがちょっと赤高目に出てるというのは、この 2015 年以降の記録にはちょっと多くてですね、結果として初動の読み取りがちょっとしにくかったということもあって、記録とか、
0:42:35	地震計の故障具合を見た上で、結果として、このちょっと前半部分に
0:42:42	期間は 2015 年なんですけども得られたものは、2014 年の末までのものにちょっと偏っRIがあったというのが自治体のとこでございます。
0:42:58	規制庁の永井です。であればそこは企業にちゃんと落としていただけますかね、それはかなり重要な点だと思うので、
0:43:07	お願いしておるんです。
0:43:10	続きました。
0:43:13	はい。1 件行ってちょっと深く、
0:43:16	いましたが全体としては、今のようなコメントとして、私から 11 を終了させてもらいます。
0:43:32	ません。規制庁の佐藤ですけども、ちょっと今のね、
0:43:36	24 ページなんですが、
0:43:39	2019 年 1 月まで観測した地震っていって機器が故障しているんで 2014 年までのデータしか使いませんでしたって、これ。
0:43:47	観測期間を 2019 年 11 月までって本当にそういうの仮想化っていうのはちょっと疑問を感じるんだけどね。
0:43:57	うん。確かに
0:43:59	今の御指摘がそういう
0:44:01	保証期間とかあるんであればその
0:44:04	それ除いた期間、普通にそう書くよねっていうのはちょっと単純な話なんですけどね。
0:44:14	先生。
0:44:22	地震をとれてるんです。
0:44:24	はい。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:33	ちょっとここには一応記録を見た。
0:44:37	区間としては一応 2010 年まで見たということでちょっとそういう期待をしてますが、ちょっと結果的に偏りがあったというのは、
0:44:45	ちょっとそういう
0:44:48	今おっしゃったような話。
0:44:51	すてきなお待たせそういうあれ多層
0:44:55	ただ、どうしてもここはしっかりと記載のほう、
0:44:59	国庫補助機関とかノイズレベルの話はちょっと資料上に出たいと思ってはいはい規制庁佐藤ですよろしくお願いします。
0:45:21	じゃあ他のやつ。
0:45:23	何でもう 1 点ちょっと突っ込んだところで確認させてもらいたいんですけども。
0:45:27	14 ページ。
0:45:31	詰めよう多分これが肝になると思うんですけれども、
0:45:36	許可の留萌モデルっていうのはこれは 3073 秒ぐらいから、
0:45:42	微動に基づいて 14 の緑とかなりかけ離れてますけど。
0:45:47	うん。これって
0:45:50	ほかの展望売ってもやっぱ個々かけ離れてるっていうのは確認されてるんです。
0:45:58	また重要以外のデータを仮に使ったサトウの背弧ってかけ離れてるっていうのは確認されてます。
0:46:05	え一っとですねＡ－14 以外のか、点との比較っていう意味だとかの確認はしてございませんから、株主ないというのが、
0:46:17	実態です。
0:46:20	もう少し青線に近づくのがあるのかもしれないとかちょっと確認したいと思います。
0:46:27	来るのは、今回 3000 か 2200 サスペンションぱたトラブルの
0:46:33	比較で変わったところっていうのは、
0:46:35	影響してるのが、
0:46:38	この範囲、この 3 秒以上のところに影響してるっていうことをであるのであれば、
0:46:43	これによってモデルが適正かというか現実に近づけられたという証拠になると思うんですね。
0:46:51	やはりそこは強調して説明された方がいいんじゃないかと思うんですけど、いかがですか。
0:46:58	おっしゃる通りだと思いますので、はい。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:02	そのように説明したいと思います。その上でもへの重要以外がどうなんかというところはちょっと確認をしてですね、しっかりと確認したいと思います。
0:47:12	内ですが、どこまで載せるかは御社で判断してもらえばいいと思うんですけども、本資料としてはこれで
0:47:19	仮にのせるとして例えば参考とかでほかの点を示してっていうのが、説明性の向上という観点ではこれ審査会合の日ぶら下がるね。
0:47:29	さっきコメントしますけれども今回のモデルの検証というところがかなり重要なものになるんじゃないかと思うんですけども、そうですねはい、わかりました。
0:47:39	はい。それでちょっとコメント回答で適切にご回答のモデルがどれだけ妥当なのかということを
0:47:45	駄目なの。
0:47:47	2 ページの三番目の
0:47:50	ともう移動しちゃってますけども体感一番のまた以下の二つ目のポツとしては存在しているので、
0:47:56	そこはしっかりと
0:47:59	回答していただきたいと思いますので、
0:48:02	必要なものがあれば参考データとして追加していただくようにしてください。
0:48:08	はい。現在イクタマです。はい。走時ました。
0:48:11	やっぱり何校に追加してちょっと
0:48:16	準備したいと思います。
0:48:26	規制庁サトウですけども、資料のコース書き方、もう書式の問題なんですけど。
0:48:34	コメントNo.123 がどこのページの
0:48:39	に書かれている内容と対応するのかっていうのが、
0:48:44	はい、わからないので、
0:48:47	それをこの資料の右肩のほうに書いてもらえますかね、何かコメントNo.121 とカードな場に多分修正って書いてるところのページに該当するんだと思うんですけど、新規かもしれませんけど
0:49:02	わかりました。下の適正化だけなんですみません。
0:49:06	はい、そのページで、コメント番号と対応できない。お願いします。
0:49:11	はい。
0:49:21	すみません規制庁のミツイですけども、ちょっと米三ちょっと基本的なところを聞かしてください今回の地盤
0:49:29	モデルを変更することによって、地震基盤相当面. 何から何かあったんでしたっけ。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:36	そうですね。
0:49:39	地震基盤相当面の深さは炉外モデルと同じですけれども、これ
0:49:46	ページで言いましたのは、例えば 8 ページ目。
0:49:50	連絡と、
0:49:53	ここに
0:49:55	ダウンホール法を使ってもいい。
0:49:58	四角で書いてありますが、あの地震基盤相当面 1 は、
0:50:03	前回も来許可のときの期間の留萌と今回のモデルは同じ深さの標高マイナス 679 なんですけれども、
0:50:13	VSの値VSVPの辺りがですねこの表にあるように、
0:50:19	価によりこの表にあるような値に今回かかったということでございます。
0:50:27	はいL9 兆ミツイですけども深さは変わらないで、あとマイナス 679 から浅いところも変わらないで、はい。
0:50:37	そっから深いところが変わったっていう理解でいい。いいですか。
0:50:41	はい、その理解で結構です。はい。
0:50:45	あとですねすいません 24 ページはえーとね何だっけ。
0:50:51	ねえ。
0:50:52	25 ページか。
0:50:56	検証した地震の選定の根拠となる何
0:51:01	伝達関数のを代表する地震をご自身選定してあるんですけど、この代表するっていうのは、この何そのさん。
0:51:11	3 秒より下側のばらつきがあるところの何というか
0:51:16	真ん中辺っていうかその辺を取ったっていう意味ですか、その代表する地震というのは、
0:51:21	そうですね
0:51:23	特に停止ん低周波数側規模の小さい地震があると、あまり精度が良くなくて結構ばらついてしまうので、そこはある程度まとまりを持ったものを選ぶとこういう比較的規模の大きいもの、
0:51:41	結果として選ばれてます。そうするとこの、
0:51:44	短周期低周波数側も、このようにばらつきが抑えられて抑えられたということで、これをもって
0:51:54	全体を代表するというふうな
0:51:57	言い方で今して記載しております。
0:52:01	やはりわかりましたすいませんありがとうございます。
0:52:12	ほかに何か確認しておくことありますか。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:14	いいですか。
0:52:17	はい。大体出揃ったようなのですいません私からもすいません細かいイワタですけれども細かいことなんですけれども例えば 6 ページとかですね、
0:52:28	16 ページテーマ同じ図が右側に使われているんですけども、実は入ってる内容情報が少し変わっていてですね、例えば 6 ページでいくと、今も質問ありましたけれども、地震基盤相当面という言葉が書いてないんだけど、だけれども 16 ページに書いてあったり、あと、16 ページの大深度地震計という文字があるんだけれども、
0:52:46	6 ページなかったりとかですね、同じ図を使ったらいいんじゃないかと思うんですけれども、この辺はちょっと整合をとっていただいた方がですね、最初に 6 ページのほうが出てくるので、これを見れば一目瞭然っていうのはいいのではないかと思いました。
0:53:00	そう生じまして確かにおっしゃる通りなんであの同じ図は、同じ
0:53:06	どこで来ても同じページ、決定され、同じ図にいたします。
0:53:11	はい、えっとすると今回のコメント回答が途中まで地盤のところからやってくださいということだったんでまさにそういう仕上げになっているんですが、後ろの 35 ページ以降の資料ってこれは何かつけておく必要がありますか。
0:53:29	特にあの会議に夕方いただけてないんですけどあの議論のときに、もしくはちょっと補足説明資料とかそういうところまで言及することがあるのかなと思ってですね。ちょっと補足説明資料をつける関係上、ちょっと
0:53:45	途中のやつも、あまり作戦に一式そろえたというところでございます。
0:53:54	特に
0:53:55	当日の 35 ページ以降は特段説明する向けはないので、
0:54:02	むしろ系でまだサービスっても大体かなと思っています。はい。規制庁イワタですけれども多分ここの
0:54:10	はあとには議論及ばないと思うので特に要らないんじゃないかなと思いますので介護用試料の際にですね、考えていただければと思います。
0:54:19	ナガイからもありましたけれどももともとエルムの地盤モデルっていうのを別途あってですね、今回のやり方を変えますということでもともとダウンホールで決めていたのサスペンションに変えますということでVSのよりその 2200 に近いところですね、モデルができましたということなんです。
0:54:37	先ほどもちょっと地震の記録の話もありましたけれどもこれって結局は前の許可でも同じようなことを本当はできてたわけなんで、それが今やるということのですね、理屈ですねというのも素朴な疑問になるわけなんでそこをしっかり説明していただいたほうがいいのではないかと。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:54	思いましてきくかではここまで見てなかったんだけどもきっかけがね、その容量とスペクトルでもいいんだと思いますけれども、新たにしっかりいろんな知見というのは出てたんだけれども、それらを再整理した上で改めて見直しましたということなんですかね。その辺りをですね、しっかり
0:55:11	説明いただけると我々もその時系列の背景とかですね、もともとできるんだったら、
0:55:16	既許可のときにやっておけばよかったんではないかとかですね、別に新たな
0:55:21	地盤モデル作る必要もないんじゃないかとはちょっといろんなそのじゃんねんてくるので、そこはしっかり今回やられたですね、理屈理由をですね、御説明いただけることで一つ目のコメント回答にはによりなんかこう、理解度が増すんじゃないかと思います。
0:55:36	そこは工夫をぜひよろしくお願いいたします。
0:55:39	はい、原電の生玉です。今御指摘あったという十分認識しましたのでそのように、
0:55:47	資料作成したいと思います。
0:55:51	内からほかにはないですか。そうですか。
0:55:55	はい、ナガイですけども、先ほどのイワタの方買った資料の 6 ページっていうところでは、
0:56:02	35 から 50 ページはまず必要ないと思いますので、51 以降の補足に関しては、
0:56:10	A丸井地域はあったほうがいいかと思いますので、
0:56:19	もともと
0:56:20	あったモデルの説明、計算結果の最後の規模の断層モデルの地震動評価っていう 64 ページ。
0:56:29	以降ですかね、これは必要ないと思うんですけども監査補足は入れておいていただけると助かりますのでその方向で整理をお願いします。
0:56:38	それでイクタマで生じました。はい、その①の
0:56:42	キカン時のモデルのところは残していきたいと思います。
0:56:51	審査は大体以上なんですが、ええと原電から何か追加で確認をしておくこととかですね、ありますでしょうか。
0:57:03	こちらから特に御質問とか確認事項はございございません。はい、わかりましたの規制庁イワタですけれどもそうするとですねこの中身で集まり地盤モデルについてのコメント回答ですね先んじて審査会合をやることは全然問題ないと思ってますので、
0:57:21	今日のコメントを踏まえて多分資料の修正ってそんなにないと思うんですが、

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:26	対応としてはどのぐらいになりますでしょうか。
0:57:31	それと今日いただいたコメントの中で、
0:57:38	14 ページですね位相分散曲線のところ、また地点のところ、
0:57:44	も含めて確認するというところがどのぐらいかかるかなという
0:57:50	そこがポイントだと思いますが、位相分散曲線の計算自体はそれほどは時間がかからずに、計算ができますので、
0:58:02	まず資料修正としては、
0:58:08	一周間か、1 一、二週間。
0:58:12	Issue考えつつ、
0:58:16	できると思います。
0:58:19	今週中ですね今週中ぐらいに資料のほうが計算が終わって計算あればあとは、資料の範囲だけなので、っていうのが今週中に計算結果も含めて、資料修正のめどをつける方向で
0:58:35	考えています。
0:58:36	はい規制庁の岩田です。大体状況わかりましたので審査会合としてはですね、そうしたら今月が来月 12 月に入って 12 月中にですね、どこかで考えたいと思いますので、そのつもりで準備を進めていただければと思います。
0:58:51	あと当日説明はこれ時間的にはどのぐらい必要ですか。
0:58:57	そうですね、今日、今日、今日の朝、ヒアリングでは大体 30 分程度でしたので、会合でも、
0:59:08	おそらく 30 分。
0:59:10	ぐらいんかなと思ってる。
0:59:16	コメントだけなんであんまりだらだられる必要もないような決まりますんで 20 分から 30 分の間でいただけますか、これをしますと効率よく、20 分ぐらいで収まる。
0:59:31	効率よく説明したいと思います。はい、わかりましたよろしくお願いいたします。そうしましたらですねあの準備ができた段階で介護資料ですね出していただければと思いますし我々もあまりも本件について再度ヒアリングする必要はないと思ってますので、この内容で修正していただいてですねあとすいません、うちの担当者と事務的に
0:59:49	審査会合の日程を詰めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
0:59:55	はい。よろしくお願いしますが一つました。
0:59:58	はい、じゃあ他になければ本日ヒアリング以上にしたいと思いますが、よろしいですか。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:04	はい。
1:00:06	結構でございます。
1:00:07	はい、じゃあの本日のヒアリング終了したいと思います。お疲れ様でした。
1:00:12	ありがとうございました。

※１　音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
　　発言者による確認はしていません。
※２　時間は会議開始からの経過時間を示します。